

高度化する無線システムの基盤となるアンテナ・伝搬及び関連システムの論文特集の発行にあたって



高度化する無線システムの基盤となるアンテナ・伝搬
及び関連システムの論文特集編集委員会

委員長 藤元 美俊

一昔前の無線システムは、「いつでも」「どこでも」「だれとでも」通信可能なシステムを目標に掲げて研究開発が進められてきたが、その後「どんな情報でも」が加わり、多種多様な通信形態が実用化されている。更に第5世代移動通信システムでは、高速広帯域伝送だけでなく、多接続、低遅延という要求が加わり、無線システムの高度化はとどまるところを知らない。アンテナ・伝搬及びそれに関連する技術は、高度化する無線システムを支える基盤技術の一つであり、多くの研究者が精力的に取り組んでいる。

以上のような背景のもと、日本人として母国語で正確に伝えること、若手研究者の研究発表を促すことを狙いとして、今年度もアンテナ・伝搬及び関連するシステムをScopeとする和文論文特集を企画した。本特集は、アンテナ・伝播研究専門委員会（A・P研）が中心となって企画し、和文論文誌Bの9月号に毎年掲載している、いわゆるアンテナ・伝搬関連特集（AP特集）の16号目となる。

今回の特集には、論文22編（招待論文3編を含む）・レター4編の投稿があった。厳正な査読の結果、最終的に論文14編（レター3編を含む）が採択された。投稿数及び採録数ともに、例年のAP特集と同程度の件数であり、研究会や総合大会等において広く周知した

ことが功を奏したとともに、特集テーマとして多数の研究者の研究分野をカバーできていると考えられる。

本特集では、伝搬損失特性モデリング、低姿勢高機能アンテナ、及びフェーズドアレーに関する3編の招待・解説論文を掲載した。無線システムの基盤となる、アンテナ・伝搬・システムの3要素に対応する分野の第一線で活躍されている研究者に執筆頂いた招待・解説論文であり、若手だけでなく中堅の研究者にとっても有用な情報を提供できたと考える。

最後に、本特集を発行するにあたり、投稿頂いた著者の皆様、査読に協力頂いた査読委員の皆様、企画及び編集作業に尽力頂いた編集幹事・編集委員の皆様、そして本会事務局の皆様深く感謝する。

藤元 美俊（正員：シニア会員） 昭60（株）豊田中研入所。平1名工大・工・電気卒。平3同大大学院修士了。小形アンテナ、アダプティブアレー、地上デジタル放送移動受信の研究に従事。平12名工大大学院博士了。博士（工学）。平15福井大助教授。平19同大准教授、平26同大教授、現在に至る。到来方向推定、UWB通信、干渉低減の研究に従事。1991年（社）日本電気技術者協会霜寿賞、1992年度IEEE AP-S Tokyo chapter, Young Engineer Award、2006年、2010年本会ソサイエティ活動功労賞、2013年本会通ソ・チュートリアル論文賞、受賞。著書「アンテナ工学ハンドブック」（共著）。IEEE、映像情報メディア学会会員。

高度化する無線システムの基盤となるアンテナ・伝搬及び関連システムの論文特集編集委員会

委員長	藤元 美俊
副委員長	道下 尚文・有馬 卓司
委員	内田 大輔・大島 一郎・木村 雄一・武田 茂樹
	長 敬三・中澤 進・西森 健太郎・平山 裕
	堀 智・山口 聡・山田 寛喜・山田 渉